

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-7	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
117明治	古B347	新 高等学校 古典B		

1. 編修の基本方針

「国語総合」の「国語に親しみ、豊かな心と知性をもつ創造的人間を育てる」という基本方針を受けつぎ、高等学校段階の国語の能力を確実に身につけるため、新たに下記の方針を策定した。また、基本的に全ての教材の内容を通して教育基本法第2条各号に示す目標を達成するよう教材を選択し、配列した。その中で特徴的な教材については「2. 対照表」に示した。

- a 古典（古文・漢文）を読む能力を高め、それを理解する能力を養う。
- b 現代に受け継がれてきた古典作品を鑑賞して、その思想や感性を理解し、自分自身の思考を深め、豊かな感受性を培う。
- c 古典に対する興味を深め、自国の伝統と文化を守り育て、大切にすることを育む。
- d 言語活動の基礎である文字や言葉の源となった、文語、仮名、漢文、漢字などについて理解を深め、文字や言葉の本質や価値を認識する。

2. 対照表

(例)

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求め、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	豊かな情操を養う、という観点から、古典に関する評論文として「『枕草子』の味わい」を掲げた。現代の作家による古典作品の読解に触れることで、生涯にわたって古文に興味を持つ契機となると考えたため。	62頁2行目～65頁9行目
第2号 個人の価値を尊重し、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	個人の能力を伸ばし、自主及び自律の精神を養い、職業との関連を重視する、という観点から、「螢雪之功」を掲げた。苦学して立身出世し、社会に益する人物となるという話から、学ぶことが将来の職業へとつながることを意識することができると考えたため。	91頁5行目～92頁7行目

<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に寄与し、その発展に寄与すること。</p>	<p>正義と責任を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。存義序」を掲げた。作者の強い気持ちで、政治や社会を理解すること、今後の人生の糧と考えたため。</p>	<p>125 頁 1 行目～ 126 頁 11 行目</p>
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。う観点から、「春はあけぼの」を掲げた。美しい四季の移り変わりがある我が国の風土を自意識すること、自ら自然を大切にすることを考えるため。</p>	<p>54 頁 2 行目～55 頁 7 行目</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんだ我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんだ我が国と郷土を愛する、という観点から、「百人一首」及び「百人一首一美の世界」を掲げた。現在でもカルタ遊びなどによって身近な存在である百人一首の世界に触れることで、いにしえから継承されている我が国の文化を大切にすることを養うことができたため。</p>	<p>52 頁～53 頁</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
- 2 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
- 3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
- ① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第〇号)
 - ② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：〇ページ)を記入する。
 - ③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
- 5 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 6 別紙様式第4-1号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-7	高等学校	国語	古典B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号		※教科書名	
117明治	古B347	新 高等学校 古典B		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

a 単元の構成
単元の構成は、原則として領域別、ジャンル別とした。学習が重点的、かつ効果的に行われることを期待したからである。

b 単元の配列
単元の配列に当たっては、「古文」「漢文」の各分野の配当時数並びに、バランスを考慮し、生徒の興味喚起と学習到達度を考慮して、発展的、系統的に学習できるように配列した。

c 教材の選択
ア 教材は、編修方針に基づいて選定した。なお、教材のうち、筆者名のないものは、編集委員が書き下ろしたものである。
イ 高等学校の古典として、「国語総合」で最も基本的なものを幾つか学習していることを考慮し、重複するものを避け、学習が発展的、系統的に行われるよう工夫した。変化のある多様な内容に触れられるように、文種・形態・時代や長短・難易に配慮し、バランスよく教材を選定した。
ウ 古典としての評価が高く、かつ生徒の学習意欲を喚起するに足る基本的で親しみやすい教材を精選した。
エ 古典教材の学習を容易にし興味を持たせるため、読みやすくするよう表記を工夫し、言葉の上での抵抗が少なくなるように図った。また、適宜、注釈を施したり、漢文においては、訓点を付け、特に、文語文法との有機的な関連にも配慮した。
オ 古典が現代まで読み継がれている意味について考える際の一助となるよう、古典についての評論文も掲げた。
カ 我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める一助となるよう、日本人が作った漢詩文も取り上げた。

d 注
ア 注 固有名詞や辞書では検索しにくい語句や難語句について、番号を付し、その解説をした。解説は文脈に即して行い、読解上の抵抗を少なくするようにした。
イ 注意点 ●を付けて、本文読解上の注意点を質問の形で示した。
ウ 注意する語句 *を付けて示した。古文では、重要語句を中心とした。漢文では基本句形を掲げた。

e 研究・言葉の学習
教材ごとに「研究」を設け、内容理解の問題を中心とし、学習指導が有効かつ適切に行われるように配慮した。古文編の「言葉の学習」では、主に文法・語法に関わる問題を掲げ、読解に即して文語文法の指導がしやすいように考慮した。漢文編では、主に語法・語句・漢字に関わる問題を掲げた。
また、「言葉の学習」には、古文編漢文編共に、辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷について分かったことを報告させるなどの言語活動も盛り込んだ。

f 付録
古文編では、文法要覧・日本古典文学史年表・参考図録〔四季・月(陰暦)の名称、干支表、方位、時刻、陰暦月齢表〕・重要古語の解説および索引〕を、学習に資するものとして示した。
漢文編では、中国文化史年表・漢文の基本句形を、学習に資するものとして示した。

g 資料
古文編では、旧国名・都道府県名対照図・京都付近図・古典参考図録〔平安時代の住居、調度、女性の装束・男性の装束・武装、平安京条坊図・大内裏図・内裏図〕を、学習に資するものとして示した。
漢文編では、中国新旧参考地図を、学習に資するものとして示した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	内容の取扱い	箇所	配当時数	
見返し	平安京条坊図・大内裏・内裏 京都付近図	(1)		見返し1~2		
		(2)				
	旧国名・都道府県名対照図	(1)		見返し3		
		(2)				
古文編 前編						
1 説話	安養の尼の小袖 (古今著聞集)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 12~13	1
		(2)	ウ			
	児の飴食ひたること (沙石集)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 14~15	1
(2)	ア					
	大江山 (十訓抄)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 16~17	1
		(2)				
2 物語	竹取物語 帝の求婚	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 18~20	2
		(2)				
	かぐや姫の昇天	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 21~24	2
(2)						
	古文の窓①敬語から主語を考えよう	(1)	ア イ		P. 25	
		(2)				
3 随筆 (1)	徒然草 世に語り伝ふること	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 26~27	1
		(2)	ウ			
	これも仁和寺の法師	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 28~29	1
		(2)	ウ			
	雪のおもしろう降りたりし朝	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 30~31	1
		(2)				
	城陸奥守泰盛は	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 31~32	1
(2)						
方丈記 ゆく河の流れ	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 33~34	1	
	(2)					
養和の飢饉	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 35~38	2	
	(2)					

	古文の窓②無常の世を生きる	(1)	オ		P. 39	
		(2)	ウ			
4 歌物語	伊勢物語 通ひ路の関守	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 40~41	1
		(2)	ウ			
	梓弓	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 42~43	2
		(2)				
5 百人一首	小野の雪	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 44~45	1
		(2)	ウ			
5 百人一首	百人一首	(1)	ア ウ エ	(2) (3) (4) ア	P. 46~51	3
		(2)				
6 随筆 (2)	古文の窓③『百人一首』—美の世界—	(1)	オ		P. 52~53	
		(2)	エ			
	枕草子 春はあけぼの	(1)	ア イ ウ エ	(2) (4) ア	P. 54~55	1
		(2)	ウ			
	うつくしきもの	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 56~57	1
		(2)				
	はしたなきもの	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 58	1
	(2)					
7 軍記物語	雪のいと高う降りたるを	(1)		(3) (4) ア	P. 59~60	1
		(2)	ウ			
	九月ばかり	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 60~61	1
		(2)				
	古典に関する評論文 『枕草子』の 味わい	(1)		(4) ア (4) イ	P. 62~65	1
		(2)	ウ			
7 軍記物語	平家物語 忠度の都落ち	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 66~69	2
		(2)				
	先帝身投げ	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 70~73	3
	(2)					
8 日記	参考 今や夢昔や夢 『建礼門院右京大夫集』より	(1)	ア ウ	(3) (4) ア	P. 74~75	1
		(2)	イ			
	更級日記 門出	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 76~77	1
	(2)	ウ				
8 日記	源氏物語を読む	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 78~80	2
		(2)	ウ			
9 俳論・俳諧	古文の窓④漢字と仮名	(1)	オ		P. 81	
		(2)	エ			
9 俳論・俳諧	俳諧	(1)	ア ウ エ	(2) (3) (4) ア	P. 82~84	3
		(2)				
9 俳論・俳諧	俳論	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 85~86	1
		(2)				
漢文編 前編						
1 故事・逸話	矛盾 (韓非子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 88	1
		(2)				
	推敲 (唐詩紀事)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 89	1
		(2)				
	画竜点睛 (歴代名画記)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 90~91	1
		(2)	ウ			
	蜚雪之功 (蒙求)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 91~92	1
	(2)					
2 史話・史伝	両頭之蛇 (新序)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 93~94	1
		(2)	ウ			
2 史話・史伝	朝三暮四 (列子)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 94~95	1
		(2)	ウ			
	十八史略 太公望	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 96~97	1
		(2)				
	藺相如	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 98~99	1
		(2)				
	燕雀安知鴻鵠之志哉	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 100~101	1
	(2)					
2 史話・史伝	背水之陣	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 102~104	2
		(2)	ウ			
	赤壁之戦	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 105~108	2
		(2)				
	創業守成	(1)	ア イ ウ オ	(3) (4) ア	P. 109~110	1
		(2)	ア			
2 史話・史伝	漢文の窓①『十八史略』と日本	(1)	オ		P. 111	
		(2)	エ			
3 詩	竹里館 涼州詞 望廬山瀑布 舟中 詠元九詩 旅夜書懷 黃鶴樓 春夜 遊山西村	(1)	ア ウ	(2) (4) ア	P. 112~118	6
		(2)	イ ウ			
3 詩	漢文の窓②唐宋の詩	(1)	オ	(4) ア	P. 119	
		(2)				
4 文	五柳先生伝 (陶淵明集)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 120~122	2
		(2)	ウ			
4 文	雑説 (唐宋八家文読本)	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 123~124	2
		(2)	ウ			

	送辭存義序（古文真宝）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 125~127	2
		(2)				
	漢文の窓③中国の散文	(1)		オ	P. 128	
		(2)	イ			
5 寓話	五十歩百歩（孟子）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 129~130	1
		(2)		ウ		
	夢為蝴蝶（莊子）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 131	1
		(2)				
	且買履（韓非子）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 132	1
		(2)		ウ		
	漚鳥舞不下（列子）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 133~134	1
(2)			ウ			
不顧後患（説苑）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 134~135	1	
	(2)		ウ			
	漢文の窓④寓話とは	(1)		オ	P. 136	
		(2)		エ		
古文編 後編						
1 説話	博雅の三位と鬼の笛（十訓抄）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 138~139	1
		(2)				
	秦兼久の悪口（宇治拾遺物語）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 140~141	1
		(2)		ウ		
2 歴史物語	大鏡 花山天皇の退位	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 128~144	2
		(2)				
	三船の才	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 145~146	1
		(2)				
	肝試し	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 147~150	2
(2)			ウ			
南院の鏡射	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 151~152	2	
	(2)					
	古文の窓⑤歴史物語	(1)		オ	P. 153	
		(2)	イ			
3 日記	蜻蛉日記 町の小路の女	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 154~156	1
		(2)				
	和泉式部日記 夢よりもはかなき世の中を	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 157~159	2
(2)			ウ			
	紫式部日記 秋のけはひ	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 160~161	1
		(2)				
4 万葉集・和歌・歌謡	万葉集 和歌	(1)	ア ウ エ	(2) (3) (4) ア	P. 162~167	2
		(2)				
	古今和歌集仮名序	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 168	1
(2)						
	歌謡	(1)	ア ウ エ	(2) (3) (4) ア	P. 169~171	2
		(2)				
5 物語	源氏物語 光源氏誕生	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 172~174	2
		(2)		ウ		
	小柴垣のもと	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 175~178	3
		(2)				
	物の怪の出現	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 179~182	3
(2)						
野分の垣間見	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 183~186	2	
	(2)					
	古文の窓⑥平安貴族の結婚	(1)		オ	P. 187	
		(2)		エ		
6 評論	文（無名草子）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 188~189	1
		(2)				
	読み比べ教材『徒然草』一静かに思へば一	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 190	1
		(2)		イ ウ		
	おもて歌のこと（無名抄）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 191~192	1
		(2)		ウ		
天性の名人（耳塵集）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 193~194	1	
	(2)		ウ			
田舎に雅言の残れること（玉勝間）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 194~196	1	
	(2)		ウ			
	古文の窓⑦古語と方言	(1)		オ	P. 197	
		(2)	ア	エ		
7 伝承	古事記 須佐之男命の大蛇退治	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 198~202	3
		(2)				
8 近世小説	世間胸算用 鼠の文使ひ	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 203~209	3
		(2)		ウ		
	古文の窓⑧ベストセラー作家の誕生	(1)		オ	P. 210	
(2)			エ			
漢文編 後編						
1 逸話	王昭君（西京雜記）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 212~213	1
		(2)		エ		
	中石没矢（蒙求）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 214~215	1
		(2)				

	令七步中作詩（世説新語）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 215～216	1
		(2)				
	青眼白眼（蒙求）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 216～217	1
		(2)	ウ			
2 小説	死友（搜神記）	(1)	ア イ ウ オ	(3) (4) ア	P. 218～220	2
		(2)	イ			
	人面桃花（本事詩）	(1)	ア イ ウ エ オ	(3) (4) ア	P. 221～224	2
		(2)				
酒虫（聊齋志異）	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 225～228	2	
	(2)	イ				
漢文の窓⑤中国の小説	(1)		オ	P. 229		
	(2)	イ				
3 史話・史伝	史記 鴻門之会	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 230～237	4
		(2)	ウ			
	四面楚歌	(1)	ア イ ウ オ	(3) (4) ア	P. 238～242	3
		(2)	ア ウ			
参考 題烏江亭 杜牧 烏江 李清照	(1)	ア ウ	(3) (4) ア	P. 243	1	
	(2)	イ				
漢文の窓⑥司馬遷と『史記』	(1)		オ	P. 244～245		
	(2)	ウ				
4 詩	桃夭 野田黄雀行 勅勒歌 子夜呉歌 兵車行	(1)	ア ウ エ	(3) (4) ア	P. 246～253	4
		(2)	ウ			
5 思想	孟子	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 254～255	1
		(2)	エ			
	荀子	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 256～257	1
		(2)				
	老子	(1)	ア イ ウ エ	(3) (4) ア	P. 258～259	1
		(2)	ウ			
莊子	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 260～261	1	
	(2)					
韓非子	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア	P. 262～263	1	
	(2)					
漢文の窓⑦諸子百家	(1)		オ	P. 264		
	(2)					
6 日本漢詩文	閑旅雁 富士山	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 265～266	1
		(2)				
	徂徠貧居	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 267	1
		(2)	ウ			
借陰	(1)	ア イ ウ	(3) (4) ア (4) イ	P. 268	1	
	(2)					
漢文の窓⑧日本漢詩文	(1)		オ (4) イ	P. 269		
	(2)					
付録	文法要覧	(1)	ア	(3)	P. 270～279	
		(2)				
	日本古典文学史年表	(1)			P. 280～285	
		(2)				
	参考図録	(1)			P. 286	
		(2)				
重要古語の解説および索引	(1)	ア		P. 287～294		
	(2)					
中国文化史年表	(1)			P. 295～298		
	(2)					
漢文の基本句形	(1)	ア	(3)	P. 299～304		
	(2)					
口絵	住居・調度・女性の装束	(1)		口絵1～3		
		(2)				
見返し	男性の装束・武装・中国新旧参考地図	(1)		見返し4～6		
		(2)				
					計	140

- (備考)
- ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
 - 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
 - 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：〇～〇ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
 - 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要ない教科、種目については空欄でよい。
 - 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
 - 別紙様式第4-2号の分量は5ページ以内とする。